

平成 21 年 7 月 21 日
大阪ウォーターフロント開発（株）広報チーム
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
<http://www.kaiyukan.com/>
（担当：松原、齋部、西村、田井、鈴木）

傘の直径が 30cm を超える大型クラゲ！

今年も海遊館で「ビゼンクラゲ」を特別展示！

大阪市港区の海遊館では、平成 21 年 7 月 22 日（水）から、館内 3 階「ふあふあクラゲ館」で、傘の直径が 30 cm を超える大型の「ビゼンクラゲ」4 匹を、約 1 ヶ月間の予定で特別展示します。このビゼンクラゲは、7 月 18 日（土）に九州北西部の^{ありあけかい}有明海で採集したもので、海遊館での大型のビゼンクラゲの展示は、今回で 7 回目となります。

ビゼンクラゲは、大きいもので傘の直径が約 80cm、重さ約 20kg にもなる大型のクラゲで、有明海近辺では食用として、夏から秋にかけて漁獲されています。

今年も有明海でのクラゲ漁が始まり、海遊館では今年もビゼンクラゲの採集と長距離輸送に成功したため、7 月 22 日（水）から約 1 ヶ月間の予定で、ビゼンクラゲを特別展示します（生物の状況により、展示期間を短縮または延長する場合があります）。

海遊館では平成 13 年から有明海での「ビゼンクラゲ」の調査を行っており、平成 14 年に飼育の難しい大型個体の輸送と展示に初めて成功しました。



過去のビゼンクラゲ展示の様子

海遊館では、大型の「ビゼンクラゲ」をご覧いただくことで、クラゲの神秘や、「刺される」というマイナスイメージだけではないクラゲの魅力、食用にもなるというクラゲと人間との関わりなども知っていただき、クラゲについてさらに興味を持っていただければと考えています。

1.【大型の「ビゼンクラゲ」展示概要】

展示期間：平成 21 年 7 月 22 日（水）から約 1 ヶ月

生物の状況により、期間中でも展示を中止する場合があります。

場 所：海遊館 3 階「ふあふあクラゲ館」

展 示 数：4 匹（傘の直径約 30cm）

2.【ビゼンクラゲ】 学名 *Rhopilema esculenta*

南日本の沿岸海域に生息する。かつて岡山県児島湾が名産地だったことから「備前クラゲ」の名がついたといわれている。有明海沿岸では「あかくらげ」と呼ばれている。食用になり、寒天質の傘の部分は厚くて硬く歯ごたえがある。英名では「Edible jellyfish」（食用クラゲ）と呼ばれている。成長すると傘の直径が 50cm、重さが 10kg 程度になり、時には 80cm、20kg にもなる個体もいるといわれている。傘の縁に触手（しょくしゅ）はなく、8 本の口腕（こうわん）には、それぞれ多数の棒状の付属器が付いている。傘は白く、口腕は赤い。傘の縁を力強く開閉させて活発に泳ぐ。7 月から 10 月頃にかけて、有明海沖合で刺網漁（さしあみりょう）によって漁獲される。有明海で見られるものは、他の海域のものと別の種類の可能性もあり、現在研究が進められている。

3.【ふあふあクラゲ館】

平成 11 年 7 月 16 日に、海遊館 3 階の特別展示室をリニューアルして建設した。床面積 289 m²の展示室に、水流、照明、音響を工夫した大小 12 基の水槽（総水量約 11t）を設置し、「透きとおった命の世界」をテーマに神秘的なクラゲの展示を行っている。館内の観覧通路の照明を暗くし、水槽の照明を工夫することにより、クラゲをより美しく、幻想的に観察することができる。館内の BGM には、クラゲ好きで有名なアーティスト・チチ松村氏より提供していただいた「ゴンチチ」の曲や、「アコースティックカフェ」のオリジナルサウンドを使用し、さらに雰囲気を高めている。現在 12 種約 600 匹のクラゲを展示している。

4.【今までに「ふあふあクラゲ館」で展示したクラゲ】

アカクラゲ、ミズクラゲ、ギヤマンクラゲ、ネクチクラゲ目の仲間、アマクサクラゲ、サカサクラゲ属の仲間、カブトクラゲ、アトランティックシーネットル、チョウクラゲ、カミクラゲ、キタユウレイクラゲ、タコクラゲ、オワンクラゲ、ドフラインクラゲ、カギノテクラゲ属の仲間、フサウミコップ、パープルストライプトジェリー、サルシアクラゲ、ウリクラゲ、ハナガサクラゲ、ビゼンクラゲ、オキクラゲ、カギノテクラゲ、キタミズクラゲ、パシフィックシーネットル、ブラックシーネットル、スナイロクラゲ、ヤナギクラゲ、パプラーゼリー、シロクラゲ、ユウレイクラゲ、エチゼンクラゲ（以上 32 種類）